

平成 28 年 9 月号に登場！

中学生になった今でも
当時のように仲良しです



あおい 渡邊 葵偉さん たいせい 安田 汰聖さん

当時、よく遊びにいていた「ちゃばたけ」は、中学生になった今、イベントなどがあるとお手伝いとして当時の自分くらいの子どもたちのお世話をしている場所になっています。

葵偉さん

現在、中学2年生になり写真を撮っていたいただいた野球部に所属しています。写真を撮っていたいただいた「ちゃばたけ」では、特に夏休みに流しそうめんや虫取りをした思い出があります。

汰聖さん

わたしの1冊

広報かわまたは
頑張る気持ちに繋がる

平成 6 年 12 月号に登場！

一 の表紙を撮っていただいた時は、川俣町フェンシング大会の参加人数も一桁しかないフェンシングが知られていない時でした。しかし、今では全国どこからでも参加できる大会となり参加人数も100名を超える大きな大会になりました。フェンシングを続けてこれた理由の1つに頑張った結果を出せば広報かわまたなどのメディアなどに取り上げてもらえるということがあり、当時、モチベーションにも繋がっていました。広報紙では、フェンシングに限らず頑張っている子どもたちを取り上げてもらいたいと思います。



まさる 今野 勝さん



広報かわまたでは毎月多くの住民の皆さんに登場していただいています。今月号ではこれまで発行した800号の中から取材にご協力いただいた皆さんにお話を聞きました。

とてもやりがいがあり楽しい日々でした

広報かわまたを担当した中で全国広報紙コンクールで賞を受賞したことが一番思い出に残っています。広報紙は「取材」「写真撮影」「デザイン」などあらゆるスキルが必要です。それらを学びながら、町の情報を届けられることはとてもやりがいがあり、かけが

えのない楽しい日々でした。今は、広報担当時に経験し、取得したクリエイティブな知識やスキルを活かし、映像監督として働いています。伝える手段が紙媒体から映像媒体に姿を変えたい、川俣町の魅力をもう一度表現したいと思っています。

平成 29 年 5 月号から平成 30 年 4 月号までの1年間「広報かわまた」を担当し、現在、東京都を中心に映像監督として全国各地で活躍の幅を広げる。



れい や 佐藤 礼也さん

昭和 63 年 1 月号に登場！



みえこ
菅野 三枝子 さん

今の子どもたちにも
絹のまちを知ってほしい

当時、高機を動かせる人がほとんどいなく、織物展示館の指導員として採用されました。そんなこともありおりもの展示館がオープンした時の表紙として掲載していただいたんだと思います。それから令和 4 年までの約 30 年間、おりもの展示館やからりこ館で展示の説明や織物体験の指導員として勤めました。広報かわまたでは「かわまた美より」のコーナーで町内の方が様々な活動や経験をしていることが分かるので毎月楽しみにしています。今後今の子どもたちが川俣町を支えてきた絹織物や養蚕について学べるような記事があったらいいなと思います。

娘の笑顔が不安な気持ちから
救ってくれました

す みよし保育園に通っていた娘が広報紙に掲載されると聞いてとても喜んだことを覚えています。驚いたのはいつも家では泣いてお母さんっ子だった優芽花が満面の笑みで写真を撮られていたことです。東日本大震災からまだ 1 年ほどしか経っていなくて不安だった中でこの笑顔に気持ちを救われたことを覚えています。

かおりさん

こ の時の記憶はありませんが、当時の担当の方に自然な笑顔を引き出してもらったんだと思いました。

優芽花さん

平成 24 年 8 月号に登場！



ゆめか
齋藤 優芽花さん・かおりさん

昭和 63 年 9 月号に登場！



しんいち
佐藤 眞一 さん

懐かしい記憶を
よみがえらせてくれる

昭和 59 年、まだ養蚕が盛んだった頃、桑畑を更地にしてチェリートマトの栽培を始めました。当時町内でチェリートマトを栽培してる人はいませんでしたが、町や農協の関係者と話し合いながら進めていきました。それから 4 年後の昭和 63 年、チェリートマトを出荷する人が大幅に増え、町内で 70・80 人は生産者がいたと記憶しています。主な出荷先は東京や神奈川で売上は約 2 億ほどになり町の一大産業になっていました。広報紙では毎月様々情報が幅広く掲載されていて楽しみです。高齢者も増加しているので文字も大きく写真も多いと読みやすくて嬉しいです。